

全国のコウノトリの状況

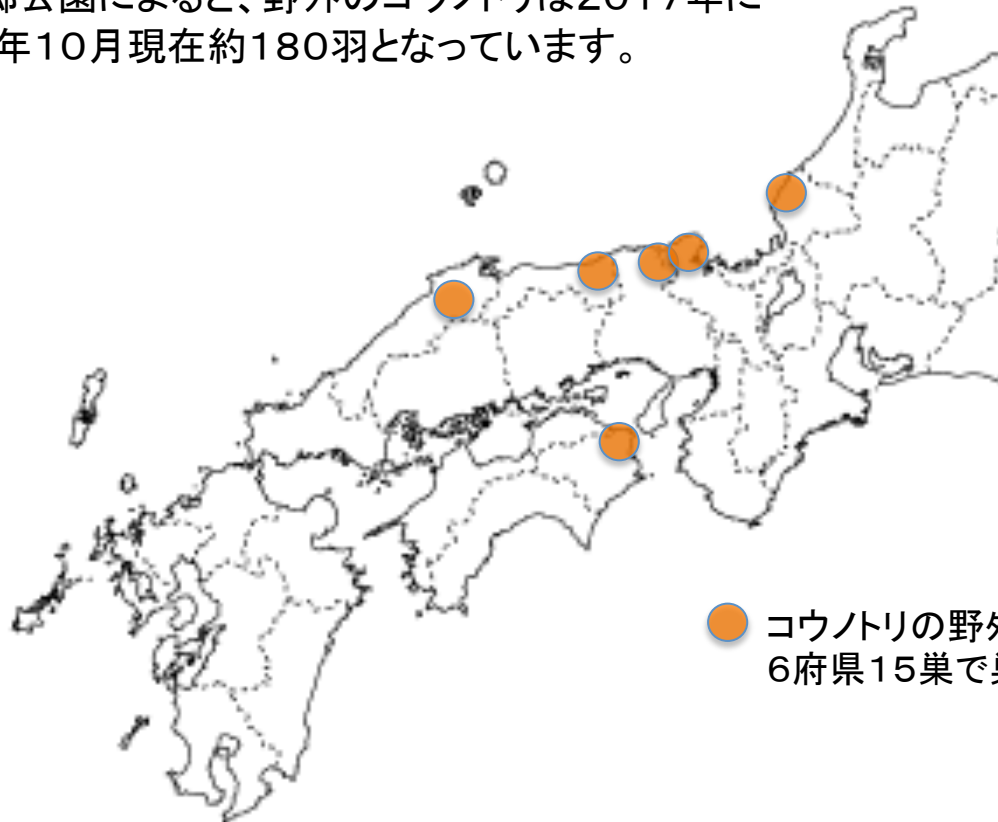
1971年、日本のコウノトリの野外個体群は消滅しました。

その前から人工飼育、人工繁殖に取り組んで来た兵庫県や東京都多摩動物公園等の長期間の努力により、1988年に人工繁殖に成功。飼育個体は徐々に増加し、2002年には100羽を超え、2005年に兵庫県豊岡市で放鳥が開始されました。

2007年に放鳥後初めて豊岡市で野外での巣立ちに成功。

2017年には豊岡盆地周辺以外では初めて徳島県鳴門市で巣立ちし、その後、島根県、福井県、鳥取県などで巣立ちに成功しています。

兵庫県立コウノトリの郷公園によると、野外のコウノトリは2017年に100羽を超え、2019年10月現在約180羽となっています。



徳島県のコウノトリの状況

●飛来と繁殖

2015年2月にJ0044♂とJ0480♀が別々に鳴門市へ飛来し、4月には巣作りを始めましたが産卵確認には至らず、2016年は産卵したものの抱卵を放棄。

2017年、豊岡盆地周辺以外では初めて3羽が巣立ちし、2018年2羽、2019年3羽が巣立っています。

鳴門板東ペア(J0044♂、J0480♀)とその子どもたち以外にも、本州からの飛来数は年々増加し、2019年秋には最大羽数が31羽にもなりました。



2019年の巣立ち

●コウノトリを育むもの

完全な肉食であるコウノトリは、食べ物を水田農業に依存していますが、徳島県の場合はレンコン畑が主要な餌場を提供しています。レンコン畑はほぼ一年中、コウノトリが好む浅い湛水状態を保つという特徴があります。

しかも長年にわたって、化学農薬や化学肥料を減らして環境にやさしい農業に取り組んで来たため、コウノトリの餌となる水生動物が豊富に生息しています。

しかし、夏の3カ月ほどはレンコン畑は葉や茎で覆われてしまうため、餌の確保が厳しくなる傾向にあります。



冬のレンコン畑



夏のレンコン畑